

第 19 回 日銀グランプリ決勝大会 審査員講評

審査員長 氷見野 良三（日本銀行副総裁）

審査員 鈴木 純（経済同友会 副代表幹事、帝人株式会社 シニア・アドバイザー）

江川 雅子（学校法人成蹊学園 学園長）

高田 創（日本銀行政策委員会審議委員）

田村 直樹（日本銀行政策委員会審議委員）

1. 総評

皆さん、完成度の高い、創意工夫に富んだプレゼンテーションを有難うございました。

現在の日本経済・金融の課題について、多様な発想・視点から提言いただきました。データ分析のみならず、アンケートを実施したり、実務家への聞き取り調査を行ったり、実際に株価指数やweb ページを作成したりと、皆さんの情熱・行動力を存分に感じることができました。質疑応答では、審査員からの質問に対して、自分たちの考えをしっかりと伝え、さらに議論を深めていました。そうした皆さんの姿は大変頼もしく、嬉しく感じたところです。

2. 個別の論文について

それでは、審査検討会での議論を踏まえた講評を、わたくしが代表して述べたいと思います。

【最優秀賞】

埼玉大学

投信レンズ

～「貯蓄から投資へ」の第一歩～

埼玉大学チームは、つみたて NISA 対象商品に限定した投資説明資料の作成と提示の義務化を提案しました。既存資料よりも情報量を制限したり、インフォグラフィックスを利用したりすることで、投資初心者の商品性の理解を促すことができました。

投資初心者が安心して投資を始め、継続することができる環境を整える必要があるという問題意識はとてもの的を射ていると思いますし、金融リテラシー向上の一助になるという大きなビジョンを持った提案である点を評価します。また、HTML を利用したり、図表・イラストを活用したりするという解決策は若い世代ならではの、大変印象的でした。実際に web ページを作成した実行力も評価します。

なお、①より幅広い投信商品に対して「投信レンズ」を作成することや、②投資リスクを初心者にとどのように伝えるかといった実用性の向上に加え、③そもそもなぜ日本の投資比率は低いのかといった本質的な点にも思いを馳せて、提案をブラッシュアップすることが望まれます。

【優秀賞】

常磐大学

Green-FP で中小企業の GX をスピードアップ！

～グリーンファイナンスの専門人材拡大への提案～

常磐大学チームは、グリーン・トランスフォーメーションの推進に向けては、中小企業によるグリーン案件の掘り起こしが必要との問題意識のもと、銀行の融

資担当者の保有を想定したグリーンファイナンスに関する専門資格の創設を提案しました。

銀行を軸に中小企業のグリーン・トランスフォーメーションの支援体制を全国規模で整えるとした提案は、現実的であるとの印象をうけました。マクロの統計分析のみならず、銀行等へのヒアリングといったミクロ調査も行った点は、提案内容の充実に結びついており、努力を評価します。

なお、①企業ごとの気候変動対応策が多様であるなか、ご提案頂いた資格の特徴である「どの企業に対しても、グリーンファイナンスへの融資判断を適切に行える能力の有無を判定する」点をどのように資格試験に落とし込み、資格の魅力を高めていくかや、②どのような機関が資格制度の創設や運用を担うか、といった点について具体的に検討を深めて頂ければ幸いです。

【優秀賞】

東京理科大学

断崖絶壁 103 万

～iDeCo を用いて緩やかに～

東京理科大学チームは、いわゆる「103 万の壁」を意識した就業調整への解として、収入のうち 103 万円を超えた分を iDeCo により運用し、収入を 103 万円にみならず制度の導入を提言しました。この制度の導入により、人手不足の解決や所得の増加を期待できるとしました。

人手不足の解消と老後に向けた資産形成という今日的な社会課題を長期的な目線を持って、一挙に解決しようとした意欲を評価します。また、学生へのアンケートを実施したり、大胆に仮定をおきながらも労働供給量や運用益を試算したりすることで、提案に具体性を持たせた点も評価します。EBPM に基づいた内容となっていたと思います。

なお、①iDeCo を拡張した制度とすることによって、現在の所得増加には繋がらない点に対する主婦層も含めた労働者側の受け止め方の調査や、②社会構造が変化するなかで、既存制度の在り方自体への考察を深めること通じて、提案内容をより深めていくことが望まれます。

【敢闘賞】

同志社大学

年金問題に対する新たな処方箋

～幸齢社会の実現に向けて～

同志社大学チームは、年金財源の確保に向けた仕組みについて提言を行いました。具体的には、海外投資家に訴求する新指数を構築し、その指数に連動するETFを政府が運用したうえで、信託報酬を年金の財源に充てるという仕組みです。

年金の持続性に対する不安から端を発した問題意識は、現役世代を中心に共感が得られるものだと思います。また、データ分析を通じて、海外投資家に好まれるパフォーマンスの高い新指数の構築を試行した努力を評価したいと思います。

なお、①政府組織がETFを運用することに対する妥当性やコストの検証、既存の団体との関係整理のほか、②新指数の入れ替えなどの方法について検討を深めていくことが望まれます。

【敢闘賞】

南山大学

「JIN」思いやりある経済社会を実現する「包摂志向」日本版CBDCの提言

南山大学チームは、キャッシュレス化の進展により、金融サービスを受けにくい人々の排除がさらに進み得るとの問題意識のもと、金融包摂の観点から日本版

CBDCが必要と提言しました。ハード・ソフト両面での設計のほか、金銭管理のサポート機能の組み込みなど、関連サービスの在り方についても考察しました。

CBDCの設計や関連サービスの提供という、現在進行形のテーマについて、世界的な重要課題である「金融包摂の促進」を柱にして論旨を展開した意欲に敬意を表します。日本においても金融包摂の面で取り組むべき課題が大きいとの指摘や、CBDCが使い方によっては排除にも包摂にもなるとの指摘は、重要なメッセージだと思えます。

今後は、①金融サービスを受けにくい方への金銭管理計画と経済的自由の尊重のバランスや、②「JIN」を実現するにあたっての運用方法や基準、生態認証などを活用したセキュリティ確保策、金銭管理計画の立て方について更に検討し、より一層提言を深めていくことを期待しています。

3. おわりに

今回の発表論文に関する講評は以上です。本日の決勝進出チームの皆さんのように、今後多くの学生の皆さんが、身近な生活や大学での勉学をきっかけに金融・経済への興味と関心を培い、自ら考え、仲間と議論しながら提言を作り上げていってくれることを期待しています。

日本銀行では、来年度も日銀グランプリを開催する予定です。これからも金融・経済面の課題に対する提言をお待ちしたいと思います。

以 上